

東京都議会友好代表団北京市訪問報告書

1 訪問概要

(1) 経緯

北京市とは昭和54年の友好都市提携以降、交流事業の一環として、北京市人民代表大会常務委員会と相互に友好代表団の訪問・受入を行っています。

平成30年12月、8年ぶりに北京市人民代表大会友好代表団が都議会を訪問したことを受け、両都市の友好都市提携40周年の節目に当たる今年、北京市人民代表大会からの招請を受け、東京都議会友好代表団の派遣を行いました。

(2) 目的

相互の友好代表団の派遣を通じ、東京都と北京市との友好・親善の増進に寄与するとともに、両都市に共通する都市問題等に関して、調査及び意見交換を行い、都議会における政策立案に資することを目的としています。

(3) 訪問都市

北京市

(4) 訪問期間

令和元年8月2日（金）から4日（日）までの3日間

(5) 代表団名簿

| | | | |
|----|-----|-----|-----------------------|
| 団長 | 尾崎 | 大介 | 都議会議長（都民ファーストの会東京都議団） |
| 団員 | 増子 | ひろき | 都議会議員（都民ファーストの会東京都議団） |
| 団員 | 清水 | やすこ | 都議会議員（都民ファーストの会東京都議団） |
| 団員 | つじの | 栄作 | 都議会議員（都民ファーストの会東京都議団） |
| 団員 | のがみ | 純子 | 都議会議員（都議会公明党） |
| 団員 | 栗林 | のり子 | 都議会議員（都議会公明党） |
| 団員 | 早坂 | 義弘 | 都議会議員（東京都議会自由民主党） |
| 団員 | 高橋 | 信博 | 都議会議員（東京都議会自由民主党） |
| 団員 | 和泉 | なおみ | 都議会議員（日本共産党東京都議会議員団） |
| 団員 | 中村 | ひろし | 都議会議員（都議会立憲民主党・民主クラブ） |

(5) 費用 総額 5,671千円(千円未満切り上げ)

(6) 日程概要

| 月日 | 時間等 | 予 定 |
|-----------------|----------|---|
| 8月 2日 (金) | 午前 午後 | 羽田空港発 北京首都空港着 北京都市副中心企画展示ホール視察 北京市人民代表大会議事堂視察 北京市人民代表大会常務委員会表敬訪問 (北京市内泊) |
| 3日 (土) | 午前 午後 | 北京2022年冬季五輪委員会オフィス視察 2019年北京国際園芸博覧会視察 (北京市内泊) |
| 4日 (日) | 午前 午後 | 北京国家体育場視察 北京五輪タワー視察 北京2022年冬季五輪大会スケート競技場視察 北京首都空港発 羽田空港着 |

2 報告

尾崎大介議長を団長として、都ファースト、公明党、自民党、日本共産党、立憲・民主の各会派の代表から成る友好代表団10名は、北京市人民代表大會常務委員會の招請を受けて、令和元年8月2日から4日までの3日間、北京市を訪問しました。

【北京市の概要】

北京市は省が介在しない国の直轄市である。



《基礎データ》

- 市長：陳吉寧
- 人口：2,154.2万人（2018年）
- 面積：16,410.54 km²（東京の約8倍）
- 行政区画：16区

【北京市人民代表大會】

北京市人民代表大會は、地方国家権力機関として憲法に定められており、立法権、予算や経済計画の決定権、人事権（人民政府の長の選出など）、監督権（人民政府、人民裁判所、人民検察庁の監督）などを有する。

人民代表大會の開催は、年に1回程度のため、常設機関として、常務委員會が設置され、閉会中の業務にあたっている。

（1）北京市人民代表大會

代表数：756名

任期：5年

会議：年に1回程度

（2）北京市人民代表大會常務委員會

構成：主任1名、副主任6名、秘書長1名、委員66名

任期：5年

会議：主任が招集、少なくとも2か月に1回開催

※北京市人民政府ホームページ「北京の概要」（令和元年8月現在）より作成

北京市人民代表大会常務委員会機構図



※北京市人民代表大会常務委員会ホームページ「人大の概要－機構図」

(令和元年8月現在) より作成

2日午後、北京都市副中心企画展示ホールを視察しました。

副中心は北京市の東部、市の中心部を東西に貫く長安街の東の延長線上、京杭大運河と交差する地点に位置する開発地区で、北京市中心からおよそ30キロの場所に位置しています。企画展示ホールには、道路が南北に連なる副中心の全体模型が展示されており、副中心全体を概観することができました。

副中心の総面積は155平方キロメートル、2035年までに全ての建設を終える予定で、常住人口を130万人程度と見込んでいます。

この副中心は、行政オフィス、ビジネスセンター、文化施設の3つの機能を柱に、運河や緑に溢れる街として整備を進めています。こうした街の機能や景観は、たぶんに流動的要素を含んでいるものですが、土地の所有権が国家にあることから、一定程度の担保が図られているものと考えられます。

また、地下約31メートルには電気、ガス、水道を埋設した共同溝を整備するとともに、国内企業の技術を駆使して下水処理施設を地下化するなど、地上

の景観にも配慮しつつ都市整備を進めている状況も分かりました。

加えて、今年1月には、北京市の立法・行政機能である北京市人民代表大会・北京市政府が移転し、業務ビルや道路、公園の整備と併せて、大規模な街が、その概成に向けて着実に歩みを進めている状況を肌で感じ取ることができました。



<北京都市副中心企画展示ホールの視察>

次に、北京市人民代表大会の議事堂の視察では、IT化に目を見張るものがありました。

議場の各座席には、ワンタッチでせり上がるタブレット端末が装備されており、USBなどの各種ケーブルが接続できる端子も完備されていました。また、議会の情報公開については、一般市民が傍聴しやすいよう、会議の1週間前には議題や時間を公表するようにしているそうです。

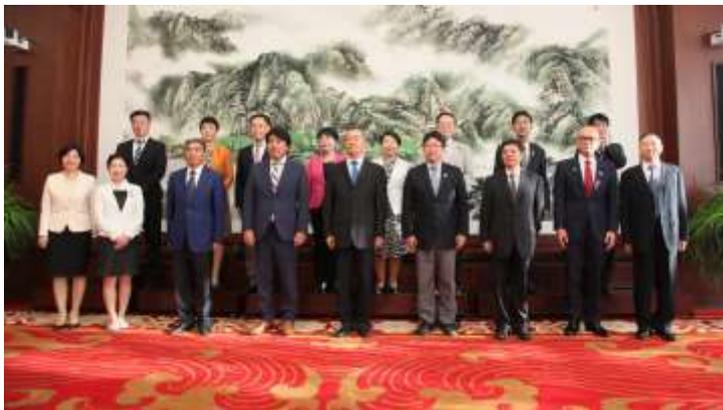


<北京市人民代表大会議事堂の視察>

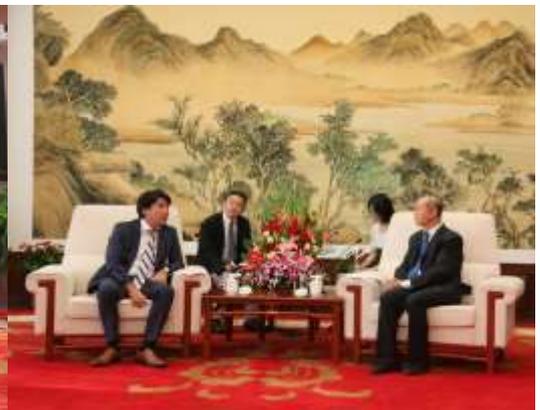
2日夕方、北京市人民代表大会常務委員会の李偉（リ・イ）主任（主任は、日本での議長にあたる。）及び常務委員会関係者を表敬訪問しました。

冒頭、李偉主任から、人民代表大会の移転後、この場を使って来賓をお迎えするのは、尾崎議長が初めて、との言葉がありました。

続けて、「友好都市関係締結以来、40年間もの長きにわたる両都市の関係は、紆余曲折の中で、着実に発展してきた。私たちは今、40周年という新たなスタートラインにたっている。ハイレベルの相互訪問を堅持することが、さらに各分野の実務的な協力を促進することにつながっていく」と両都市の交流の促進について言及がありました。これに対して、尾崎議長からは、「私も、12年前に北京市友好代表団の団員として訪問した。2008年の北京五輪に向け、急ピッチで施設の建設が進んでおり、北京市のオリンピックにかける並々ならぬ思いを感じたことを思い出している。昨年末、8年ぶりに北京市人民代表大会の友好代表団に東京にお越し頂き、本当に交流を深めることができた」と、昨年の北京市人民代表大会常務委員会の訪問について感謝の意を表しました。



<北京市人民代表大会常務委員会にて>



<表敬訪問の様子>

今後とも、東京都議会と北京市人民代表大会が相互に友好代表団を派遣し、互いの知見を深めていくことの重要性を双方で確認しました。

また、来年の夏には東京で、3年後の冬には北京で開催されるオリンピック・パラリンピック大会の成功に向け、課題をしっかりと共有しながら、協力しあっていくことも併せて確認することができました。

以下、東京都議会議長と北京市人民代表大会常務委員会主任の会談の様態を掲載した記事（「北京日報」令和元年8月3日）

李伟会见日本东京都议长

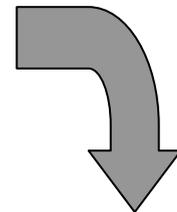
本报讯(记者 高枝)昨天下午,市人大常委会主任李伟会见了日本东京都议长尾崎大介。

李伟欢迎尾崎大介议长率东京都议会友好代表团来京访问。他说,今年是北京与东京缔结友好城市关系40周年。站在新的历史起点上,希望双方保持高层密切交往,深化务实互利合作,进一步扩大各层次各领域人员交往,增进青年一代的友好情感。北京市人大愿同东京都议会继承

和发扬双方友好交流传统,交流互鉴城市精细化管理、民生保障等方面的立法监督经验,为两市友好关系健康稳定发展提供有力保障。

尾崎大介祝贺中华人民共和国成立70周年,表示东京都愿继续深化同北京在经贸、文化、奥运、人文等领域的交流合作,加强两市议会交往,为日中友好做出更加积极的贡献。

市人大常委会秘书长刘云广参加会见。



(和訳)

李偉氏が日本の東京都議会議長と会見

本紙報道(高枝記者)

昨日の午後、北京市人民代表大会常務委員会主任李偉氏は、日本の東京都議会議長尾崎大介氏と会見した。

李偉氏は、尾崎大介議長率いる東京都議会友好代表団の北京訪問を歓迎し、次のように述べた。今年は北京と東京の友好都市締結40周年である。新たな歴史的スタートラインに立ち、双方がハイレベルの緊密な交流を維持し、実務的な互惠協力を深め、各レベル各分野での人的交流を一層拡大し、若い世代の友好的な感情を高めることを希望している。北京市人民代表大会は、東京都議会とともに双方の友好交流の伝統を受け継ぎ発揚し、都市の細密な管理、人民の生活保障等の立法監督経験を、交流を通じて参考にし合うことを望んでおり、両都市間の友好関係の健全かつ安定した発展のために強力な保障を提供する。

尾崎大介氏は、中華人民共和国建国70周年を祝い、東京都は引き続き、経済貿易、文化、オリンピック、人文等の分野で北京との交流と協力を深め、両都市議会間の往来を強化することを望んでおり、日中友好のために更に積極的に貢献すると表明した。

会見には、北京市人民代表大会常務委員会秘書長劉雲広氏が同席した。

3日午前、北京市中心部から少し西に行った北京市石景山区にある北京2022年冬季五輪委員会オフィスを視察しました。

2008年の夏季五輪大会の開催都市となった北京市は、2022年に冬季五輪大会が開催されることから、五輪史上初めて夏季・冬季両大会が開催される都市となります。

この冬季五輪委員会オフィスは、中国の鉄鋼大手の「首鋼集団」の鉄鋼工場及び工業団地の廃止後の建物を改修して使用されており、冬季五輪の歴史や大会会場の大型模型も展示されています。こうした既存建物の利用については、「(跡地を)文化やレジャー、観光のスポットにすることが市民への多大な貢献となる」という理念のもとで有効活用が図られているとの説明がありました。

東京2020大会においても、「Be better, together/より良い未来へ、ともに進もう。」という持続可能な社会の実現を理念としており、北京市と同様に五輪施設の後利用も重要な課題となっております。

こうした北京市の取組は、私たちにとって大いに耳を傾けなければならないものでした。



<冬季五輪オフィスの視察>

同日午後、北京市中心部から北西約74キロに位置する延慶区で行われている2019年北京国際園芸博覧会を視察しました。

同博覧会は、本年4月29日から10月7日までの間、「緑の生活 美しいふるさと」をテーマに、環境保護の重要性を国際社会にアピールするものとして、約100の国や機関の参加のもとで開催されており、約1,600万人の来場者を見込んでいるそうです。

私たちが視察した日本館、国際館及び中国館は、緑をテーマにした針葉樹や、様々な花きの展示があったほか、日本館では、日本人の自然に対する畏敬の念と感謝の思いによって育まれた庭園なども披露されていました。また、展示施設の屋根にはソーラーパネルが設置されるとともに、場内では電気自動車を利用されるなど、施設整備・運営の面でも、都市と自然の調和といったテーマに配慮していることが窺えました。



< 2019年北京国際園芸博覧会の視察 >

4日午前、北京五輪の夏季及び冬季大会の競技場等の視察を行いました。

北京国家体育場は、2008年の夏季五輪大会にあたり、メインスタジアムとして建設され、通称「鳥の巣」として親しまれており、大会後の利用も視野に入れ、地下を含めた躯体は100年間の使用にも耐えられるよう設計され、堅牢な造りとなっています。91,000人も的人员を収容できることから、大会後は、演劇やコンサート会場、各種競技、そして、2022年に開催される冬季五輪大会では、開会式及び閉会式の会場として活用されるなど、多くの人々に親しまれ続けている状況が伺えました。



< 北京国家体育場の視察 >

また、北京五輪タワーも、2008年夏季五輪施設が集まるオリンピック公園内に建設されています。生憎の曇り空でしたが、高さ264.8メートル付近から屋外に出てみると、各種の競技場や金融センターなど、北京市中心部を一望に見渡すことができました。

この五輪タワーは、当初、2008年夏季五輪大会開催に合わせ、展望台から開会式の花火を見ることもできる電波塔として計画されていましたが、残念ながら完成が間に合わなかったそうです。

しかし、現在は、五輪マークの恒久的な使用が国際オリンピック委員会から認められるなど、北京五輪の永遠のシンボルとして大きなレガシーとなるとともに、観光施設として、国内外からの観光客で賑わっておりました。

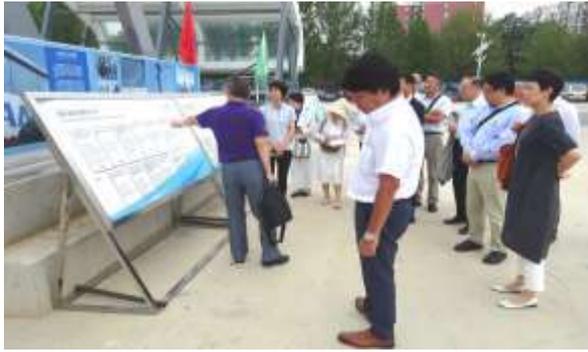


<北京五輪タワー>

最後に訪れた2022年冬季五輪大会のスピードスケート競技場「国家速滑館」は、建築面積約8万㎡、観客席数は1万2000席と、アジアで最も広い室内スピードスケート競技場となるそうです。現在は、躯体部分の工事が終わり、内部工事の段階に入っていました。完成時には建物の周囲が22本の氷のリボンのような帯で取り囲まれるデザインから、「氷糸帯」の愛称が付けられるそうです。

北京市では、冬は気温が0℃近くになるため屋外のスケート場も数多く整備されている等、市民がスケートに親しみやすい環境が整っており、スケート人口の増加にも力を入れているとのことでした。

この「氷糸帯」も、大会後にはオールシーズン対応のスポーツセンターとして広く一般市民に開放されることから、スケート人口は、ますます増加していくものと思われます。



＜北京２０２２年冬季五輪大会スピードスケート競技場の視察＞

3 結び

今回の訪問では、北京２０２２年冬季五輪大会施設等を視察し、北京２００８年夏季大会施設の後利用や大都市特有の課題について意見交換を行いました。

その中で、特に、排ガスを抑制するため、北京市では三輪車や二輪車の電動化を進めていることや、自動車の購入に台数制限を加えるなど、大気汚染対策を着実に進めている状況を窺い知ることができました。また、廃棄物処理についても、有価物のリサイクルを推進している反面、生ごみの処理が必ずしも十分でないなど、大都市に共通する課題について意見交換を図ることができ、３日間という短い時間の中で大変有意義な視察を行うことができました。

私たち都議会友好代表団は、今回の訪問を通して得られた知見を今後の都議会における政策立案に生かしてまいります。

結びに、歓待いただきました北京市人民代表大会を始め関係者の皆様に心より厚くお礼を申し上げ、東京都議会友好代表団の報告とさせていただきます。